

第6回亀山市学校給食検討委員会議事録

日時・場所	平成27年7月23日(木) 午後1時00分～午後3時20分 亀山市役所 大会議室
出席委員	仲律子委員長、大川吉崇副委員長、遠藤博美委員、川口謙次委員、伊藤登美子委員、 玉村仁子委員、上田真梨子委員、東裕美委員、本田実委員、松井美樹委員、 北崎亜紀委員、櫻井恵美子委員、川戸磨美委員、吉崎直子委員、豊田達也委員、 富田真左哉委員、大澤哲也委員、青木正彦委員、藤尾春樹委員、原田和伸委員
欠席委員	なし
事務局	佐久間利夫教育次長、中原博学校教育室長、 学校教育室 原千里、小林真理子
事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 2 前回議事録の確認について 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校における昼食に関するアンケートの調査結果のまとめについて <ul style="list-style-type: none"> 【資料1】アンケート調査結果の考察について (2) 中学校給食に関する協議について <ul style="list-style-type: none"> 【資料2】学校給食について 【資料3】中学校通学距離・通学時間一覧 【資料4】中学校における昼食時間について 【資料5】関中学校残菜調査について 【資料6】中部中学校及び亀山中学校の完食率について 【資料7】中学校における食育指導について 【資料8】お弁当の日の取り組み状況について 【資料9】デリバリー給食試食会アンケートについて 【資料10】亀山市中期財政見通しについて 4 その他

議 事 内 容

【教育次長】

みなさんこんにちは。本日はお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。時間ですので始めさせていただきます。本日は前回に引き続きまして、中学校給食について皆さまからご要望のありました資料をそろえましたので、少し時間が長くなるかと思いますが、活発な協議をお願いいたします。それでは、仲委員長進行をお願いします。

【委員長】

ただいまより、第6回亀山市学校給食検討委員会を開催します。はじめに、亀山市審議会等の会議の傍聴に関する規程により傍聴の許可についておはかりします。現在、1名の傍聴を希望される方がみえます。本日の会議において傍聴の許可をしたいと思います、これに異議ございませんか。

(異議なし)

異議なしとみなし、許可したいと思います。なお、途中傍聴を希望する方がみえましたら、再度皆様におはかりいたしたいと思います。

本日は、資料も多く、途中休憩を入れますが、3時間の会議を予定しております。今回の会議につきましては、説明が主であり、次回もう1回会議を開く必要があると考えております。当初のスケジュールは、次回意見書案を事務局に提案していただくということでしたが、もう少し委員のみなさんで協議して、方向性をまとめていく時間が必要であると考えます。委員の皆様、第7回も中学校給食に関する協議ということで、もう1回会議を増やさせていただいてよろしいでしょうか。

ご了承いただきましたので、もう一回会議を増やさせていただきます。

それでは、まず前回の議事録の確認をしたいと思います。事前に事務局より送付されましたが、ご意見等ありましたら発言願います。

(意見なし)

それでは、これを第5回議事録とし、教育委員会ホームページで公開いたします。

続いて、議事に入ります。前回の会議において、全中学生を対象に実施しました「昼食に関するアンケートの調査結果」について協議し、分析及び考察について委員の皆様からご意見をいただきました。そのご意見をもとに本日仕上げたいと思います。事務局、資料1の「ア

ンケート調査結果の考察について」の説明をお願いします。

【事務局】 【アンケート調査結果】及び【資料1】を説明

【委員長】 前回の皆様のご意見をもとに再度考察案を作成し、提出していただきましたが、ただいまの説明について、何か質問やご意見などはございませんか。

【松井委員】 最後の2つに分かれているセンター方式と給食の考察のところの修正後ですが、給食の提供方法に関係なくということですが、これは全体の考察なので、給食だけではなくてお弁当やデリバリー給食に限らずといったことだったと思うんですが、これは給食だけに限っているような感じがするので、給食というより昼食全体として捉えた方がいいのかなと感じました。

【委員長】 考察案3の修正後の一番下の四角のところですね。一番下の四角の上から3行目、給食の提供方法に関係なくということですが、これは全体の考察なので給食に限らず昼食全体として捉えられるように書き直した方がよいのではないのでしょうかということですが、いかがでしょうか。

【松井委員】 給食というのが、昼食全体を指すのであればそれでも問題はないと思いますが、給食だけに限ってしまうような表現になってしまうのではないかと思いました。

【委員長】 おそらくデリバリーとセンターの給食の提供方法の違いで時間差が出てくるのではないかとということで、それによって昼食の時間の長短が出てきた時に、弊害があるのではというような意図で提供方法という表現をしているということですよ。

【事務局】 このあと法令の資料も提供させていただきますが、現在の亀山中学校と中部中学校の昼食の形態は、ミルク給食と呼ばれているもので給食として位置づけられているので、ミルク給食か完全給食かの提供方法に関係なくと考えれば、昼食ではなく給食と捉えていただけないかと事務局では判断しました。

【委員長】 給食という表現に関しては、ミルク給食ということで昼食全体を

指しているということによろしいでしょうか。

【川口委員】

食育指導の時間の確保ということが前面に出ており、実際そうなのかなという思いもあるわけですが、学校で生徒を指導する時間は限りがあり、そこにいろいろな指導が入ってきているのが学校の現状です。そう考えると、より効果的な食育指導が必要なのかなと感じています。もちろん、時間を十分使えばそれだけ子どもたちの心の中にも入っていくのかもわかりませんが、一つは教育活動全体の中に位置づけるということと、少ない時間を有効に使うために内容をより精選し充実していくことが子どもたちへの有効な手段かなと思いますので、そのように考えていただけると、現場として助かるなと思っております。それから、教員が食に関する指導の大切さを強く認識した上でとありますが、現状認識が足りないという指摘かなと思います。そのことも十分分かった上で指導を進めていきたいという思いは誰でも持っているわけで、違う表現にできないかなと感じました。また、中学生は生涯を通した食育の基礎となることからとありますが、中学生が食育の基礎となるわけではないのかなと思いますので、この言葉の使い方ですけど、小学校も含めてだと思うので、学齢期の児童生徒の食生活は生涯を通した食育の基礎となるという表現を考えました。中学生が基礎となるというのは意味が通らないと思います。家庭への食育の啓発に関して書かれている部分ですが、学校と家庭が連携して進めていくという表現がどうかかなと思いました。

【委員長】

まず、1点目、中学校における食育指導の時間の確保ということですが、時間が限られているので、内容をより精選するとした表現がよいという意見ですね。ここについては、前回ご指摘がなかったのですが、精選した内容ということを追加するかどうかというところですね。2点目、教員が食に関する指導の大切さを強く認識した上でとありますが、いろいろな提供方法がある中で、食育をする上で差がないように先生方が強く認識したほうがよいのではないかといいところですね。それから、中学生は生涯を通した食育の基礎となることからということですが、これは中学校の給食についての検討なのでこのように表現されているかと思いますが、確かに中学生だけでなく小学生からということも考えられますし、保育園児や幼稚園児もここに入ってくると思いますので、学齢期という表現に変えてはというご提案ですがいかかでしょうか。事務局いかかですか。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございました。中学校現場での指導の時間の確保は難題であり、社会が学校現場に求めるものが多くなってきていることも事実で、その責任を限られた時間で果たしていくということが本当に難しいというのが、校長先生のお言葉を聞きながら同感する部分もありますので、1点目の時間の確保については、例えばですが、「時間や内容を精選し食育指導の充実を図っていく」といった表現にし、時間だけでの問題ではないという意味も含めて変えさせていただけたらと思います。教員の意識の部分では、実態を十分分からずにこのような表現をさせていただいたので、「さらに」の後を削除させていただいて、学校の教育全体を通じてという部分は、前の部分と重なりますので、文章を整えて、ほとんどキーワードとしては同じような表現で取り入れさせていただきます。3点目、「中学生は」という表現は、「学齢期の食生活は生涯を通した食育の基礎となる」と、義務教育における食育指導の大事さを表す表現に変えさせていただきます。「学校と家庭が連携して」というところは、学校からの働きかけによりの後の文章の中で、表現をうまく調整しながら取り入れていきたいと思います。以上です。

【委員長】

それでは、ご意見をいただいたことをもとに、少し調整をさせていただくということですが、昨年度からこの検討委員会において検討を進めてきましたが、食育に関してはさらに充実していきましようという合意を得ての今回のこの記述にはなっているかと思えます。食に関する指導に関しては、「強く」というのが言葉的に強調されているということはあるかもしれませんが、「さらに」とか少し弱めるような表現にさせていただくとしても、食育に関しては今回の委員会では一つの大きなテーマになっているところだと思いますので、ある程度残していただくようなことも念頭に置いて話を進めていただければと思いますが、いかかでしょうか。よろしいですか。他に何かご意見はございますか。

【委員長】

それでは、ご意見をいただいた中で修正するべき部分については修正させていただいて、これを検討委員会の「アンケート調査結果の分析と考察」とします。

続いて、前回の会議で、委員の皆様から検討課題とされました資料について事務局より説明願います。

【事務局】

【資料2】「学校給食について」について、説明

【原田委員】 【資料2】のうち、県内各市の給食センター建設費について、説明

【委員長】 今回は資料1から資料10までたくさんありますが、生徒にとつたアンケート結果、それから客観的な説明資料が多くあります。今まで私たちが検討してきた内容を踏まえて今日の終わりにみなさんをお願いしますが、自由記述で中学校給食をどうしていきたいのかということをお次回までに書いていただく予定にしております。その参考にしていただくための今回の説明ですので、それを頭の片隅に入れていただきながら、説明をきいていただければと思います。先ほど、資料2についての説明がございましたが、何か質問などはございませんか。

(意見なし)

続いて、中学校の現状に関する資料がいくつか提出されておりますので、順に事務局説明願います。

【事務局】 【資料3】「中学校通学距離・通学時間一覧」から【資料9】「デリバリー給食試食会アンケートについて」まで、事務局説明。

【委員長】 続いて、前回の会議でもご意見がありましたので、「亀山市の財政状況」について説明していただきます。大澤委員、お願いします。

【大澤委員】 【資料10】「亀山市中期財政見通しについて」を説明

【委員長】 それでは、ただいまの説明について、質問の時間となりますが、ここで休憩を10分間入れたいと思います。2時20分までです。

【委員長】 それでは再開します。休憩前の資料の説明について、何かご質問はありますか。

【吉崎委員】 資料2の3ページの4の食育基本法についての(3)の亀山市食育推進健康増進計画ですが、亀山市はどのような取組を取り組んでいるのか参考にお聞きしたいです。

【事務局】 教育委員会の取組としましては、かめやまっ子給食やデリバリー給食の地物が一番みえの日など地産地消を中心に取組を進めております。

- 【委員長】 地産地消に関しては中学校の食育においても触れられていましたでしょうか、三重県の食材などを使ってということが入っていたと思います。関中にも同様の内容があったかと思います。このような回答でよろしかったでしょうか、もっと詳しく説明があったほうがよいですか。
- 【吉崎委員】 食育推進計画と健康増進計画を一体的に作成していますと書いてあるので、亀山市全体でどのような取組がされているのか全体的にわかればいいかなと思ったんですが。
- 【委員長】 何か亀山市としての全体的な取組があるんでしょうか。
- 【事務局】 福祉部の方で作成され、その中で教育委員会として先ほど説明したようなことに取り組んでいます。私から始めるみんなに広げる健康文化ということで、大きな健康の枠組みの中で食育を位置づけて、学齢期の子どもたちに食に対する意識を芽生えさせるということで、学校としては食に関する指導を進めているところです。後で資料を提示させていただきます。
- 【委員長】 お願いします。他になにかご質問はありますか。
それでは、これまでの資料やアンケート結果などを参考にいただき、前回の資料2としてお渡ししました中学校給食の協議について、委員の皆様自由に発言していただきたいと思ひます。
- 【遠藤委員】 今たくさん資料をどのように自分の中で消化したらよいかということで精一杯なんですけど、給食ということに関しまして、先ほど考察の中にありましたけれども、提供方法に関わらずというあたりがあったと思いますので、生涯を通じて各家庭において食がいかにか大切にそれをどのように充実させていくかというあたりについて、学校でどのようにしていくのがいいのかということが求められていると思ひます。中学校の給食についてということについては、この検討委員会で提出していただいた資料や、皆様とともに話し合ってきたことを考え、ただやはり先ほど財政のことを言っただきましたけれども、そこをどこまで私たち検討委員会が考えて意見を述べたらいいかということについては、複雑な思ひでござひます。こうしたいという思ひがあるものの、それが実現するかどうかについては、財政面が大きく関わってくると思ひます。私としましては、

子どもたちにとって何がいいかを考えていければと思っています。たくさんの意見や資料をいただきましたので、自分なりに考えをまとめていきたいと思っています。

【川口委員】

資料の隅々に目を通すことはできていませんが、学校現場に務める者の意見としては、食育は大事な教育の一つですので、いろんな制約がある中で最大の努力をして最大の効果を挙げていきたいと考えています。そういう意味では子どもの内面に迫れるような指導ができればと思っていますが、資料の中にありましたように、中学校は残菜も多く、デリバリーについては、子どもが自分のお金で選択をして買えるということが、自分が購入したという意識になるので、購入したものについて食べたくなければ残してしまうという意識があるのかなと思います。そういう意味では、作っていただいた方の思いが伝わりにくいという感じはありますので、そこをなんとかできたらなという思いはありますし、どれくらい子どもたちが毎日残しているのかを担任が把握しきれないという現状があります。食べているように見えても、ふたを閉めてしまうと中身が見えないので、そういうところでも、教職員の目が届きにくい部分ではあるかなと思います。小学校では、担任が残さないように指導します。配膳が終わった後、盛りつけられたおかずやごはんが多いと思った子はもう一度前に並びに来て減らしていきます。それが終わると、今度は増やしてほしい子が並びます。時間がかかりますので、中学校の給食時間とそんなに変わらないのかなと思っています。また、他のいろんなこともありますので、小学校の給食指導は、先生は大変な思いをしながら行っているということも分かっていたらかなと思います。配膳が終わったらいただきますと全員が食べられるわけではない、その後も残食が少なくなるような取組を担当の先生がやっておるということも分かっていたらかなと思います。中学校給食については、私もどのようにしていったらよいのかまだ分からないですが、子どもたちにとって最善の方法であればと思っています。

【伊藤委員】

6月に職場体験がありまして、関中学校の生徒さんが10名ほどみえました。その時に給食は食べられなかったのですが、毎日お弁当を持ってきました。その時にオリエンテーションで、この職場体験の間で、1日でも2日でもよいので、自分でお弁当を作ってくる日を設けたいと思いますがどうですかと聞いたところ、努力します

という返答でした。1回目はお母さんが作ったものを入れてきただけの子もいましたが、2回目には自分で作りましたという子もいました。詰めただけの弁当もありましたが、男の子も女の子も一生懸命作ってきたなというのが伝わりました。神戸中学校の食育の充実に向けてという取組を見せていただいて、ふと職場体験の子どもたちが目に浮かんできたんですけれども、自分で作るお弁当の日を設定するというのは、指導しなくても実践しながら食育を五感で感じられるんじゃないかなと思いました。亀山市でもこういう日を作っていたらと思います。それから、園でも旬の食材を取り入れており、最近メロンがよく出ます。先日、割ってみると若干熟しすぎたメロンでしたので業者に話をしました。鈴鹿市がセンター方式になり、大量に旬の食材を持っていかれるので、早い目に仕入れていたんだと思います。そのメロンを業者に帰してしまうと業者も困るし、食べられないわけではない、捨てるのももったいないので、預かせてもらうということになりました。これ以上センターが増えると、旬の食材も取り合いになってくるのかなとふと思いました。デリバリーも弁当もそれぞれ違いますが、一生懸命努力されているんだということが分かりました。

【玉村委員】

中学校の給食を実施することは意義深いですが、とても難しい問題がたくさんあると感じました。しかし、保育園の給食を見てみると、初めは手づかみで食べていた子どもたちが、自分でコップやはしを持って食べ始めるといった時々、みんなと同じものを食べながら、マナーや食器の使い方を覚えていき、集団の中でたくさんの先生に褒められることがその子の成長や意欲につながっていることを感じています。そういうところが、集団給食のよさなんだと改めて思っています。その年齢に合った食事の仕方を学ぶことは大事だと思います。そして、みんなで残菜なく食べるということも経験できます。そういうことが経験できるのが給食であると思います。お弁当の良さもちろんありますが、お弁当だと残菜が分からないということもあります。保育園、小学校で残菜なく食べましょうということを進めていても、中学校になると嗜好の問題もありますし、残菜量が結構多いのも資料で見せていただいて、先ほどの財政難も考えると中学校給食で完全給食ができるのだろうかと不安に思いました。しかし、全国的には中学校の完全給食を実施されているところがかなり多くて、初めにも言いましたように、集団給食の良さは十分感じていますので、財政が許す限り給食を実施して食育をすす

めていってはどうかと思います。先日も教育長がおっしゃったように食は命をつなぐという話がありましたが、まさにその通りだなということを感じました。

【上田委員】

昨年度、文部科学省の栄養週報という調査で、亀山東小学校が選定の対象校に選ばれて、学校給食の栄養摂取の内容や残菜量などの実態把握調査を受けました。資料5を見せていただいて、その調査も6月実施だったので小学校の結果と見比べると、中学校は残食率が高いなと思いました。小学校は主食は0%の日が多く、多い日でも4%しか残っていなかったです。主菜と副菜は2、3%で、子どもたちが苦手かなと感じるものでも、5%ぐらいの残率でした。先ほど川口校長先生が言ってみえたように、作り手の顔が見えなかったり、子どもたちが食べたくなければ残したり、担任の先生の把握が難しいといったこともあるんですが、小学校は量を加減できるなど、担任の先生の食育指導がきめ細やかにしていただけるので、その子に応じた食事の量を調整できていると思います。中学校になると給食時間が短くなっているのも、残食率が高くなっていることにつながっているのかなと感じました。また、食育の面からですが、私も今年初めて中学校の食育に行かせていただいています。亀山中学校では食育の指導にお弁当づくりを取り入れています。食事バランスガイドを使って、お弁当を考えるという授業を行っています。鈴鹿市のお弁当の日という取組のように、実際に作るころまではいってないですが、子どもたちが自分たちのお弁当を考えるという取組は行われているので、将来的に鈴鹿市のように自分で作ってみるといのは、良い取り組みであると感じました。今日いろいろな話があって、特に財政の話を知っていると、難しい問題だなと感じています。先日、7月15日に鈴鹿市の新しい給食センターへ視察に行かせていただきました。とても素晴らしい施設で、衛生面も素晴らしく、これだけのものを建てようと思うとこれだけのお金がかかるんだと資料を見て感じています。子どもたちにとって何が一番より良いのかということも大事だと思いますが、財政面も考えていくとなると、簡単には出せない答えであるし、自分の中でもどうすることが一番良いのか定まらないところです。

【東委員】

先日県内の養護教諭が集まる会議があったんですが、偶然にも中学校給食の話題がでました。話題を出されたのは、名張市の養護教諭さんだったのですが、資料にもあるように名張市は数年前にセン

ター方式という公約を掲げられたにも関わらず、いまだ手つかずのまま給食が実施されていない状況です。他の県内の様子はどうですかという話だったんですけども、センター方式にしていくというのは、予算もあって実現していくのは難しいことなんだなと改めて感じています。私自身は関地区で育ったので、幼稚園から中学校までずっと給食いただいて育ちました。絶対給食の方がいいだろうという思いが強かったんです。昨年12月に試食会をしていただいてデリバリーを食べさせていただいた時に、いままでの印象と違ったところがあって、保護者の方にも試食会があったらいいのになという話から、今年度保護者の方にも試食していただいて、すごくいい機会だったんじゃないかなと感じました。資料9にもありましたが、今まであまりいいイメージじゃなかったけど、実際食べてみたらいいんじゃないかなと、注文しますという意見もあります。子どもは、親がいいなと思うことは安心できるけど、親が嫌がっていると子どもにも伝わるので、親が嫌がっているものは自分は選べないとか、影響するところも大きいと思うんです。いろいろ考えてまだ定まっていないんですけど、亀山市のデリバリーもせっかく改善していただいているのであれば、これを完全給食にと一概にしてしまうのは、本当にもったいないんじゃないかなと思います。例えば、温かいものは温かいまま食べることができるということも、よその市町では考えられないというぐらいうらやましがられたりするので、中学校全てを一本化にする必要はないのかなというのが今の自分の意見です。

【本田委員】

前回の会議の中で、副委員長より今の現状を亀山市の文化と捉えるべきという発言がありまして、自分なりに内容的に同じ思いもあります。この会議で、中学校給食についての意見をまとめていくポイントとなってくるのが、行政サービスとしてこの現状をどう捉えるのかということと、亀山市の食育全体を考えて、中学校給食の差は文化と捉えていくべきなのかということだと、自分なりには考えています。今の時点での自分の私見になるんですが、これまでの合併の経緯の中で、一校は完全給食、二校はデリバリーと弁当の選択となっていることを考えると、デリバリーを選択できるということであったり、給食は朝作らなくていいとか、1時間以上かかって電車やバスを乗りついで通っている子もいるとか、いろんな状況の中で生まれてきていると思うので、いわゆる見た目が同じじゃないから今すぐ同じにしなければいけないという考えには私はなっていま

せん。今、東委員より発言があったように、デリバリーについても、ここ数年で改善されてきたと聞いています。アンケートをとりながら、利用者の声を反映させながら、いいものができていく、その中でどの給食の形態でも食育は進めていけるものであると思うので、今ある形の中で可能な食育をしていく。また、市内であればいろいろな各校の交流もできるので、一つの市の文化という捉え方もできてくるのかなと私見ですが思っています。行政サービスとして同じじゃないということをどのようにこの会議で結論付けていくかについてはまだまだ議論があるかもしれませんが、現時点での自分の私見は以上のようなことです。もう少し詳しく資料を見ながら、考えがまとまっていけばいいなと思います。今の段階では以上です。

【松井委員】

まだ全部資料が読みこめておらず、考えがまとまっていません。地域による通学時間の差や、もともと弁当であるとか給食であるとかいう差など色々あると思うんですけど、給食の提供方法に関わらずという言葉が一番心に残っています。どのような形であれ食育はできると思います。デリバリーの残食については、やはり気になる場所だと思いますし、小学校に比べて多いというのはあるんですが、前の資料にもありましたように、ご飯の量を一番最初の頃より減らしているとか、いろいろ改善はなされてきているようです。そういったところをまた見つめ直したり、全校生徒に一度給食を食べてもらうという機会もあればおもしろいなと思いました。鈴鹿市ではお弁当の日の取組がありましたが、逆に給食がどういうものか、デリバリーがどんなものか親御さんや生徒さんに知ってもらう機会を設けるといいかなと感じました。まだ、子どもたちにとってどのような給食がいいかというのはまとまってないんですが、財政やこの先の人口の見通しということもありますし、一概に給食がいいとは言えないと思うので、それぞれに考えてまとめていきたいと思います。

【北崎委員】

亀山市において関中学校と亀山・中部中学校と形態が違うということはありますが、子どもたちにとってどういった提供の仕方がいいかということは、まだ考えがまとまっていませんが、一本化する必要はないのかなと考えています。その時々によって、デリバリーや給食の課題があるかと思いますが、その時々によってアンケートを取っていただいたりして課題を考えて改善していく方向でいけばいいのかなと考えています。県の家庭教育部会に出

席させていただきまして、食育を全県を通じて意識しているというのが分かりました。食育に関してどのように家庭が関わっていけるのかというのを、保護者の視点で真剣に考えていきたいなと思います。中学生になればある程度自分でできますので、亀山市においても弁当の日をつくることによって、自分たちが残食について考え直すんじゃないかなと思いましたし、自分自身で作ることで地産地消も意識するでしょうし、子ども自身が自分で作ることによって家庭でもいろんなことを考えると思います。なので、私はぜひこの取り組みを実施していただければ、川口校長先生のお言葉にもあったように、学校と連携した家庭との取組になるのではないかと思います。亀山市において中学生の子どもたちが、こういった給食のあり方がいいのかという点については、まだまだ考えていきたいと思います。

【櫻井委員】

なかなか言い出しにくいんですが、別紙5の資料を見ると、三重県は完全給食率がすごく低くて、全国ワースト6位です。80%以上の県が34もあるのに、ワースト6位は低いなとびっくりしました。関中学校は、センター方式で給食をしています。私は、亀山中学校と中部中学校も給食にしてほしいなと思っています。財政の面とか考えるとなかなか言いづらんですけど、意見としてはそれを望んでいます。難しいかもしれませんが、あくまでも意見なので、言わせていただきます。デリバリーの試食アンケート結果の中にも完全給食を望んでいる方もみえますし、他のお母さんも給食がいいなと思ってみえる方がいらっしゃるようですので、保護者の代表として完全給食がよいという意見を言わせていただきます。

【川戸委員】

財政見通しの説明をしていただくと、建設費の他にも新たな土地の問題や工事費の問題、人件費の問題とかがあると思うので、今決めていくというのはとても難しいなと感じました。これからを担っていく子どもたちにとって、いい結果が出たらいいなと思っています。私は選択肢のないお弁当のみの学校に子どもを通わせているので、川口先生がおっしゃられた残食の問題は学校では一切把握してもらえないですね。だから、家に帰ってきてから私が把握するんですけれども、そこから子どもとの会話ができるのは実際あるんです。こんなに残して来て何があったのと聞くと、友達とけんかして先生に呼ばれたとか、今日は授業が長引いて食べる時間がなかったとか、思春期の男の子なのでなかなか親に話してくれない中で、そのことはしゃべってくれるので、突破口というか、友達との問題や

先生との関わりがそこから分かるとういうのも事実です。絶対お弁当というわけではないんですが、たまたま私にはお弁当という選択肢しかないので、これからいろいろな取組をしていって、給食になるにせよ、デリバリーを継続するにせよ、一本化する必要はないのではないかなと色々な資料を見せていただいて感じました。

【吉崎委員】

私自身、地元が四日市なので、ミルク給食で育っておりまして、亀山市もミルク給食ということであまり違和感を感じていなかったんですが、この資料を見て完全給食率の高さに驚いてしまっていて、こんなにも世の中では給食が当たり前になっているんだなということにびっくりしています。他の中学校のお子さんたちや保護者の方たちがこの資料を見た上で、あなたはデリバリーがいいですか、それとも給食がいいですかと聞かれたら、たぶん給食と答える人が多いのかなと思います。今把握しているお母さんたちからの意見では、圧倒的に多いです。身近に聞いていると、関はあるのにこちらは給食がないというのがおかしいと思っているお母さんもたくさんいますし、デリバリー食べたくないから、弁当を作っているというお母さんも実際たくさんみえます。こういった情報を提供したうえで、保護者の方にもアンケートをとっていただいたら、希望する方向性が変わってくるんじゃないかなと思います。今ある現状の中でのアンケートなので、今ある現状でどう思っているのかということとは分かるんですけども、今後中学校の給食をどうするかということを考えるにあたって、アンケートをとるのであれば、今回の資料を見てからお聞きしたら、変わってくるんじゃないかなと思いました。残食率についてですが、この間ミラノ万博のことが放送されていて、テーマが食ということで、食に関するいろんな国の食文化がありますというのを紹介するのは別に、世界の残食率というのをテーマにとりあげているパビリオンがありました。1日のごみの量か分かりませんが、世界でこれだけの残食率があるというのが、模型みたいに山になって映し出されていたんですけども、それが世界問題になってきているということでした。やはり、残すということはいけないということで、実際に食べれなくて困っている人がたくさんいる中、これだけ残食率があるんですよということ、そこで見られた方々がすごく考えさせられる内容だったという話もありました。なるべく残さない、なぜ残さないかというのを子どもたちと一緒に考えていけたらいいかなと思いました。できれば小学校の時のような自校方式がいいというのが私の意見なんです。デリバリーだ

と作ったものを届けていただいて食べるだけになってしまいます。実際、小学校の時、朝学校へ行ったら食事のにおいがプーンとしてきて、今日はカレーやなとかわくわくしながら待って実際に給食を食べる、五感で食を感じられるというのが自分もすごくよかったなと思います。また、作っていただいている方に給食室このようになっていますよとか教えてくれて、食が身近に感じられたなと思いました。なので、今の現状だけでなく、そういったことも含めて考えていただければと思います。

【副委員長】

いろんなご意見をありがとうございます。勉強させていただいています。完全給食が絶対いいんですよ。この声も大きい。人数が少なくても声は大きいだろうというのもあります。もう一方では平成10年頃までにこの議題が出されていたら、早い段階でこの会議が開かれていたら、多分いろんなことができておると思います。

しかし、今という時代と将来を考えていく中で、これを考えるのは大変なところへきておるなと思うんですね。そういうことも含めて、何人かの意見にあったように、私も考えがまとまっていますが、民間を全部公共体にしていく、それが一番平等なんだと、一番いいんだという考え方はそろそろはずしていく時代になっているんじゃないかという思いがしています。それは、亀山市にあわせた政策、将来的なこともあります。全部公共にしていくことで民間をどんどん潰していくというのが、その地域にとって本当にいいかどうかということは、考えていけないと思います。もう一方では、先ほどから言われているように、給食とデリバリー、お弁当といろんなことをしながらそのよさを子どもたちにも保護者の方にも知っていただく、これがいいんだというんじゃないし、それは1回や2回じゃなしに何回もやっていくような形を実際にはしていかないと、理論だけでやっていくとここの良さがなくなるんじゃないかとそんなことを感じています。民間が悪いというのは今に始まったことではなく、この70年間の歴史がそういう歴史、三重県をみているとそういう感じがするんですね。我々市民も、この70年間どんどんその感覚にさせられてきたのがこの三重県です。そこでやっぱりもっと広い意味で、民間のいい部分を捉えて応援するといったような形で食の問題も考えていくと、財政的にも元気な市になっていく、体制を整えていくと思います。また、残食はこの数字だけではないと思います。三重県全体、家庭の残食率もそうです。みなさんの家は食にかなり興味を持っていますから、子どもさんを育

てる中で残食を減らしてみえると思いますが、普通の家庭でどうなのといった時に多くなっているのが日本の現状ですので、子どもたちを通じて家庭をどう教育していくのかという体制を整えていかないと、数字だけでああだこうだと言っていると間違った方向に行くのではないかと思います。もうちょっとこの資料を見させていただきましても、私自身の今日の会議で感じたことはそういうことです。

【委員長】

委員の方々からいろいろな意見をいただきました。行政サービスとして、すべての人たちが平等に同じようなサービスを受けられるようにするというところでセンター方式であったりとか、五感をフルに使って食育をしていくにあたり自校方式を取り入れた方がよいとか、一本化する必要はないのではないかとということであったりとか、亀山市の文化としての弁当及びデリバリー方式というのを取り入れていけばよいのではとか、本当にさまざまな意見が出ました。また、食育の面でも、残食の面でもということもあるんですが、それぞれによさをもう一度考え直してみても、実際どうしていくのかということ、次の委員会でもまとめなければならないということがあるわけです。それで今までのアンケートの中で弁当の良さとか、デリバリー方式もまずいと思っていたけど結構おいしかったとか、弁当だけということになってしまうと、お母さん方の負担が大きいですけれども、デリバリーという選択も一つあるんだよねということであったりとか、センター方式なら同じように完全給食になりますので、栄養の面とか食育の面とか残食の面とか、クリアされるかも知れないけれど、献立表を見る生徒がセンター方式だと少ないということがあったりとか、今までの委員会でもさまざまな意見とかデータとかが出されたと思います。それを参考にさせていただいて、皆様方にご意見をまとめていただかなければならないんです。それで、これからどうしていくのかということなんですけれども、皆さんのお手元に自由記述用紙があると思うんです。できれば多数決などでは決めたくはありませんので、もう少しきちんと議論しながら、亀山市として何を選択していくのかということ、自主的に積極的に結論を選択していきたいと考えています。それぞれの委員の方々のご意見を口頭でお聞かせいただきましたし、資料もたくさんあります。これをご自宅に持ち帰っていただきまして、皆様方の多面的多角的な方面からそういう視点で見ていただいた意見をお書きいただきたいと考えています。自由記述について、事務局説明願います。

【事務局】 当初は現状についてのメリット、デメリットを枠組みにはめて委員の皆さんに考えていただくかとも考えましたが、そのようなことも含めてみなさんに自由に書いていただき、広く意見を集めようと自由記述用紙にしました。これまでの資料や意見を思い出して、自由に記述していただけたらと思います。

【委員長】 ということで、一部皆様にお持ち帰りいただきまして、自由記述を思い残すことなく、書ききっていただいてそれを事務局の方に集約をさせていただいて、各委員の意見を皆様に分かっていただけるような形で見ていただいて、その上でどうしていくかということを決めていくという方向で考えてはいるんですが、いやそうじゃなくてもっと時間いっぱい使って今日議論し尽くしたいというようなことであれば、今日は16時まで時間をとっておりますので、議論していただいてもよろしいかと思えますけれどもいかがでしょうか。

【事務局】 よろしいですか。吉崎委員からご質問の亀山市食育推進健康増進計画について説明したいのですが。

【委員長】 今、亀山市食育推進健康増進計画を配布していただきましたので、事務局説明をお願いします。

【事務局】 亀山市食育推進健康増進計画について説明。

【委員長】 自由記述の方はいつ締め切りでしょうか。8月10日ですね。

【事務局】 よろしくをお願いします。

【副委員長】 意見ですけれども、これをいただいて、今後の給食の話をしていくと、いわゆる給食問題だけかなと、もっと他に整えるべきことがあるかも分からないので、そういうことも書いてもらったらどうかと思います。食に関して、知育徳育体育できたけど行き詰ってしまって食育が入ってきたわけでしょ。広い意味での知育徳育体育にも関連した食育という捉え方でこれを見ると、ただ給食センター作りましようとかそういう問題だけでなしに、食べるところをもっといい場所作って、もっといい環境で食育指導をすとか、安くてもっといいものができていくんじゃないかと感じてしまいました。

なにかそういうこともあれば書いていただいて、総合的な中の一

つとして大事なことなんですけど、もう一方で他の意見が出てきても面白いかなと思いました。

【委員長】

大川副委員長から提案がありましたとおり、大きく捉えて食育というものをどうするかを一緒に考えていただければと思います。もし用紙が足りなかったらつけていただいて、たくさんご意見を頂いた方がより豊かな答申ができるような気がしますので、何でもお書きいただければと思います。他に何かご意見やご質問はありますか。

これで、本日の議事は終了いたしました。それでは、これをもって第6回学校給食検討委員会を終了いたします。最後に事務局、お願いします。

【教育次長】

たくさんご意見を出していただきまして有難うございました。次回は、8月28日（金）午後1時から3時までを開催予定としておりますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは本日は有難うございました。お気をつけてお帰りください。

- 了 -